

令和6年11月25日

開成町議会議長 山本 研一 様

開成町議会総務経済常任委員会
委員長 武井 正広

開成町議会教育民生常任委員会
委員長 井上 慎司

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 （調査事項又は研修項目）	令和6年度議員県外行政視察（高知県） ①日高村議会 村まるごとデジタル化事業・スマホ普及率100%から始めるDX について ②オーテピア高知図書館
目的地	①高知県高岡郡日高村本郷61-1 ②高知県高知市追手筋2-1-1
期日（期間）	令和6年10月23日～令和6年10月24日
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	山本 研一	無所属	
副 議 長	前田 せつよ	公明党	
議 員	清水 友紀	無所属	
議 員	吉田 敏郎	無所属	
議 員	石田 史行	無所属	
議 員	井上 慎司	無所属	
議 員	武井 正広	無所属	
議 員	星野 洋一	無所属	
議 員	今西 景子	無所属	
議 員	寺野 圭一郎	無所属	
議 員	佐々木 昇	無所属	
議 員	山下 純夫	無所属	

随 行

議会事務局長	遠藤 直紀
--------	-------

県外視察成果報告書（日高村）

総務経済常任委員会 委員長 武井 正広

日高村は、高知市街から約 16km に位置し、人口約 4,800 人、高齢化率は 40% を超える村で、キャッチフレーズは「ほどよい田舎」。令和 2 年より全村を挙げてデジタル化を推進し、日本初のスマホ普及 100% を目指している。

少子高齢化、人口減少、財源、マンパワー不足が背景にあり、スマホ普及 100% の本来の目的は住民のエンパワメント（力をつけること）。公助が落ちてきているからこそ自助・共助が大切と説明があった。

当初スマホ普及率は全国平均並みの 64.5% だったが、令和 5 年 10 月時点で実質普及率は 92.7% にまで上昇した。

スマホ普及率の向上は、住民が情報を収集し、その情報を基に生活や行政手続きを自分で行えるようになることで、自助力を高めると考えられている。普及活動では、82 の自治会に対して「365 日いつでも説明に伺います」と声を掛け、住民の都合に合わせて説明会を実施するなど、地道な取り組みが行われた。また、役場やスーパーに「よろず相談所」を設置し、個別相談会やスマホ教室も開催された。

健康アプリ「まるけん」は、健康意識向上と健康活動の継続を目的としており、万歩計機能、健康管理機能などにより日々の健康状態を可視化し、さらにポイント機能により住民の健康活動を促進している。試算結果では約 3,000 万円の医療費抑制効果があったとのこと。そして村まるごとデジタル化事業の財源は、すべて企業版ふるさと納税の寄付によるものであり、行政としても非常に効率のよい取り組みである。

本町では、行政 DX を推進しているが、町全体としてデジタルデバイドを解消していくためにもスマホの普及率を上げていくことは必要なことであり、その方策を確認することができた今回の日高村への視察は大変有意義であった。

県外視察成果報告書（オーテピア高知図書館）

教育民生常任委員会 委員長 井上 慎司

オーテピア高知図書館は、高知県高知市追手筋にあり、高知市民図書館と高知県立図書館の共同運営によるオーテピア高知図書館、高知声と点字の図書館、高知みらい科学館からなる複合施設である。都道府県立図書館と市立図書館の合築は日本初であり、2018年7月24日に開館した施設である。

開架には約30万冊、書庫には約120万冊の本が並ぶ四国で一番大きな図書館で、各分野ごとに分かれて窓口があり、司書が本探しや調べものの手伝いを細やかに対応できる体制が整えられている。

また、おはなし会や映画会など、こども向け・大人向けのさまざまなイベントや講座も開催しており、本を借りる以外にも様々なニーズをカバーし、楽しさの溢れる図書館であった。

オーテピア高知声と点字の図書館は、障害・高齢・病気などさまざまな理由で活字図書での読書が困難な人のための図書館。

録音図書（声の本）・点字図書・マルチメディアデージー図書などのバリアフリー図書で、読書が困難な人の読書をサポートします。

閲覧室には、いろいろなバリアフリー図書や読書を支援する情報機器があり、また、視覚に障害のある人の生活を支援する福祉機器・用具などの展示も充実していた。

高知みらい科学館には40数年ぶりに高知にできたプラネタリウムがあり、オリジナル番組を専任の解説員による生解説で投映できる体制となっている。番組は定期的に変更されるので、何度訪れても楽しむことができる。

同科学館フロアーには他にも、触ったり体を動かしたりしながら科学を楽しむことのできる体験型展示があり、サイエンスショーやミニかがく教室なども行っている。

科学を身近に感じられる仕掛けがいっぱいで、こどもから大人まで楽しむことのできる科学館である。

オーテピア高知図書館は高知市のランドマークとなっており、図書館の活用法を熟知している都市部からの移住者へのPRにも寄与しているとのこと。

レファレンス業務など図書館の根幹にかかわる業務は、司書を中心に高度な能力を有する職員でなければならず、専門職を確保すると同時に人材育成を行うため、バックヤード業務以外は外部委託せず、直営を堅持しているとのこと。

オーテピア高知図書館の規模をそのまま本町に当てはめることは難しいが、人材育成に重きを置き、誰ひとり取り残さないバリアフリー図書館という発想は即本町

でも活かせると感じた。

また、本町の山神町長の思い描く図書館を中心とした複合型施設は、まだ具体的なビジョンは出ていないが、今回の視察で得た様々な内容活かし、議会としての提案も内容の濃いものとしていきたい。

議員県外行政視察 派遣成果報告書(別紙)

清水 友紀 議員

【日高村】

日高村はコロナ関連の給付金を財源に、マイナンバーカード取得とマイナポイントアプリ登録、それとデジタル地域通貨を結びつけたアプリを開発した。現在は地域通貨を維持しながら健康促進アプリとして村民ほぼ90%以上に活用されている。大学との包括連携協定で学生達に学びの機会を提供するなど交流人口拡大にも功を成している。

事業が効果を上げている理由には、現在は役場から独立しているキーパーソンとなる職員がいたことが大きい。しかしそのような限られた人物がいなくても、技術やアイデアを「他自治体と相乗りでランニングコストを抑制したらよい」という共有意識が示されたことには希望が持てた。

どんなに良い技術やアイデアもゼロから積み上げるのは労力、予算的に大変なので、互いに共有しようというプラットフォームがネット上で構築されていた。場合によっては、企業版ふるさと納税で対価を得て活用していただくという手法も取っている。そのような広域連携の意識は見習うものがある。また、すでに複数の自治体がオンライン上で参加しているというその技術共有のプラットフォームは、DX強化を行う開成町も注目するに値する。

【オーテピア高知図書館】

開成町が駅近くに図書館を含む複合施設を新設する可能性があるため今回の視察先となったが、県と市が互いの施設を合併するかたちで共同運営する高知図書館は、その蔵書数など、町規模には規格外であった。

平成30年に開館したばかりの新しい高知図書館は、高知産の木材を使い、自然を身近に感じる明るさと開放感がある。またユニバーサルデザインの設備には優しさを感じられた。「多くの人に知って欲しい」という考えから、入り口から床の点字タイルに導かれるように「声と点字の図書館」が壁の無い状態で設けられているのは象徴的な例。「病気等デリケートな悩みの相談も図書館なら来やすいだろう」と、情報提供と窓口機能を果たすつくりは、利用者寄り添った環境づくりと言える。

県と市の区切りは運営上明確であるのに、利用者には感じさせないし、このようなきめ細かな配慮には、利用者が安心感を覚え愛着を抱くことだろう。その哲学と姿勢については開成町でも多いに参考になる。

吉田 敏郎 議員

【オーテピア高知図書館】

オーテピア高知図書館は、県と市が共同経営する全国初の試みであり大変興味を持った。合築整備し開館して6年目ではあるが500万人という多くの来館者を数えた。

県立と市立の図書館が合築するに当たっては多くの反対意見が出た。しかしながら、県民と市民が図書館はどうあるべきかしっかりと議論を重ね、合築・共同経営に至ったと言う説明を受け、その内容、真摯さに大きな感銘を得た。

本町でも、町長が図書館建設に強い気持ちがあり複合施設建設をと発言している。数年前に実施したアンケートにおいても、町民の皆さまの声として「図書館がない」、「図書館が欲しい」という意見は必ず出る。少数ではあるが。

これからも、議員としてしっかり調査研究し議員間討議をしなければならない。また、町民・住民の皆さまがどのような施設を、どのような図書館を欲しているのかしっかりと議論を重ねるのが重要であると感じた。

更なる資質の向上に、町民の皆様方の更なる福祉の向上に邁進するに参考となる視察であった。

【オーテピア高知図書館】

当該図書館は、県立図書館と市立図書館が共同運営する全国初の取組みということで大変興味深く視察した。老朽化した県立図書館と市立図書館を合築整備し開館して6年目であるが500万人の来館者数を達成しているという。

合築にあたっては県立と市立の各図書館はそもそも役割が違うなどの反対意見が当初相当強かったようだが、利用者から見れば県も市も関係なく、新しい図書館はどうあるべきか、県民市民が多くの議論を重ねて、合築・共同運営という形態を選択したとの説明が非常に印象に残った。

我が町も、町長が図書館を含めた複合施設の建設に意欲を示しているが、町民がどのような図書館を望むのか町民との議論の積み重ねが必要と感じた。

また、最近の公共施設マネジメントのあり方として、公設民営など運営を民間委託するかたちが主流であるが、こちらの図書館は専門司書による調べもの案内（レファレンスサービス）をはじめ様々なサービスの充実を図るため、あえて直営にこだわり民間委託をしない姿勢に感銘を受けた。民間委託せずとも民間に負けないサービスを提供出来る好事例ともいえる。そういう意味でも非常に参考になる視察先となった。

【日高村】

高知県日高村は「村まるごとデジタル事業化・スマホ普及率 100%から始めるDX」に取り組んでいる。日高村では住民にスマートフォン普及と利活用を促し、アプリを活用して「防災」「情報」「健康」の側面から生活を支援する取り組みを行っている。この事業を進めている方は、住民の皆さんには「村まるごとデジタル化事業」を通して、スマートフォンがただ便利なツールということだけではなく、それを使いこなすことで、自分自身の可能性を広げていくことができると伝いたいと語っている。

開成町においても高齢者がスマートフォンを使いこなすことは難しく、自治体のデジタル化についていくのは厳しい状況である。日高村のように住民に常時スマートフォン使い方や相談を受ける場所の設置を進めていくべきである。これからもますます進むDX（デジタルトランスフォーメーション）社会。どのように対応していくのか。「村まるごとデジタル化事業」の取り組みが「地方創生応援税制に係る大臣表彰」を受賞した日高の先進事例を生かしていきたい。

今西 景子 議員

【オーテピア高知図書館】

議員になり初めての一般質問で取り上げた、自習室において、オーテピア高知図書館では、書籍の持ちこみ、飲み物の持ち込みも OK であり、タブレット、PC、なども使ってよいとのことであった。また、個人で静かな環境で集中して学習や仕事に取り組むことも、団体の話し合いながら学習や仕事をすることもでき、目的に合わせて選択する事が可能となっていた。

現在、開成町には自習室がなく、一般質問でも十分な回答を得られなかったもので、私の中で学習スペース確保に課題意識があり、その中での県外視察で、先進事例を実際に目にして、環境を整備することで、人が大いに成長し、人生が豊かなものになると確信できたので、開成町でも同じような環境を用意できるよう取り組みたい。今回の県外視察で、教育民生常任委員会の調査項目にもなった学習スペースに関して大いに知見を広げることができ、本や情報と出会うこと、学習スペースの確保は人生をも変え得ることだと再確認した。

【日高村】

村まるごとデジタル化事業・スマホ普及率100%から始めるDX

どうしてこうなったか。結論としては少子高齢化が大きく影響する自助や共助の欠如が課題としてあった。

日高村は南海トラフ地震が発生した際、大きな影響が想定される地域である。有事の防災、減災や行政からの連絡情報伝達。また高齢者層かつ低所得者層は特に情報弱者になりやすく、行政情報やサービスアクセスに関して不平等が生じてしまう。行政サービスのDXを進めても利用されなかったら意味が無いため、デジタルデバイスは各種有るが、スマートフォンに注目し普及率を上げる事を目標とした。令和5年10月時点で普及率は約93%である。またスマートフォン内健康アプリの影響で約3,000万円の医療費の減額効果もあり、住民の健康意識にも寄与している。

【オーテピア高知図書館】

圧倒されたのは蔵書数（開架約34万冊と収蔵能力約205万冊）幅広いジャンルと種類。過去自身で購入してきた書籍の殆どが設置済みであった。

【読む】だけではなく【聞かせる】また目の不自由な方への点字図書を導入している声と点字の図書館。日本初の県と市との共同運営の特異な図書館。直径12mのドームに星空やデジタル映像を投映できる設備のあるみらい科学館。高知市のランドマークとなっており、都市部からの流入などにも寄与している。

子どもだけではなく、学生や大人にも利用しやすい環境で、近年多様化する生活スタイル（バリアフリー）などにも大変配慮されている。視察日は各館それぞれに賑わいが見られ、わくわくするような居場所づくりや仕組みづくりがされている印象でした。

両市町ともにマイナンバーカードやDXシステムが上手に使われている。

佐々木 昇 議員

【オーテピア高知図書館】

この図書館の大きな特徴は高知県と高知市の全国初となる合築・共同運営による図書館ということである。当初、合築にあたり県立図書館と市立図書館の役割が違うことや共同運営によることなどが懸念されたが、運営においてはこれも全国で初めて図書館業務に「連携協約」を導入するなどして現在に至っているということだった。

説明の中で「合築・共同運営のデメリットは？」という質問がよくあるということで答えとして、「誰にとってのデメリットなのか、県民市民が多くの議論を重ねて決めた形であり、県民市民、利用者の立場からすると、デメリットはありません」ということだった。この答えを含め説明を受ける中で、職員の方たちの意識の高さが印象的であった。

基本理念を「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」とし、課題解決や学びを強力サポート～誰でも使える、頼れる情報拠点～とされる館内は無線 LAN が利用できる設備等も整っており、利用者の用途に合わせ様々なスペースが設置されているなどこれまで訪れたことがない図書館であった。

規模の違いはあるが、県・市による連携事業や様々な目的を持って訪れる図書館のあり方など非常にためになる視察であった。

【日高村】

公助が崩壊しつつある中で、共助、自助の再構築が必要な現状で、行政が一定のレベルを維持しながらヒト・モノ・カネを削減していくにはDXが欠かせない。しかしながらそれを実現しようとするとう高齢者＝デジタル弱者であることがネックとなっている。

日高村は、スマホ普及率100%宣言を行い、実質普及率92.7%を実現した。現状ではこれを活用した特別な事業の展開はまだない。しかし、社会課題は解決可能な課題であると行政の認識を上書きするとともに、住民側も新しい取り組みに対するレジリエンスが高まったことがこの事業の意義である。本町でも既に顕在化している課題であり、その解決の一例を見たことで、解決可能な課題との認識を進めていけることが、今回の視察の成果である。

【オーテピア高知図書館】

オーテピア図書館は、極めて大きな図書館であった。物理的な規模のみにあらず、点字の印刷設備やオーディオブックのための録音室、果てはプラネタリウムまで、およそ図書館とは思えない設備が網羅されていた。障害をもつ人への配慮もなされており、避難所として備蓄もされていた。

総工費は開成町の令和6年度予算に匹敵し、開成町の規模で考えるとかなりかけ離れていた。

ただ館長がしきりに繰り返されたリファレンス機能ということに関して、そのソフト面での考え方は仮に本町に図書館をつくった場合にも生かせるものである。即ち専門性が高く他部署に移動しない司書を育成し、企業の研究機関など高度なレベルの情報照会にも対応できるようにすることである。しかしそれにも多大なコストがかかる。

前田 せつよ 議員

【日高村】

日高村がスマホ普及率 100%を目指す要因「共助が崩れているために公助がここまでの施策をすることになった」という言葉は納得とともに、わが町の福祉向上のために危機感を持って新たな視点から調査研究をする議会になるよう拍車をかけていただけたと思います。

この施策を進めていくと、多大な成果を得られるものの「デジタル弱者の村民はスマホ活用で様々な不具合にさらされるけれども、それに慣れていただくしかない」との言葉は、日高村の覚悟がありました。

デジタル化を大きく踏み出す方法の裏には、村民一人ひとりに徹底的に寄り添いながら施策を推進する姿がありました。その一つ「スマホよろず相談所」は村内の商店や地域集会所に設置することでした。その他にも、様々村民への対応や議会と村長（行政）のやり取り、そして企業との連携などがありました。具体的に多くのことを学んだ視察であり、現地に行く事でしか得られないものが数多くあった大変に有意義な視察でした。

今回の視察を本町にどのように反映させていくのか、議会として、議員として咀嚼して取り組んでいきたい。